

---

# らっきょうの話

ハチ公線

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

らっきょうの話

### 【Nコード】

N1151E

### 【作者名】

八千公線

### 【あらすじ】

全く、世の中と言うのはかなり理不尽だ。本当に、例と言っても何だが、俺はらっきょうが好きだ。冷蔵庫にあったらっきょうがある日切れた。俺は仕方なく漬物屋に言ったらそこには多分新人のアルバイトがいたのだ。

「らっきょうくださいーい」

「…え…！」

何か変なこと言ったのかな？　と思いつつ俺は英語で言ってみた。

「らっきょうぷりーず」

「…う、うわあ…ああ…あああああああ」

椅子から転げ落ちる新人アルバイト。

「どうかしましたか？」

「ああ、あふウツ……ひいいい……」

俺なんか変なこと言ったのかなあト思っただけ俺は彼女を助けることにした。

「やだなあ、そんなにびびらないで下さいよ。ちょっとらっきょうが好きなだけですから」

そついうと彼女はウンウンと頷いて、しかし顔が怖がっている

「ああ…あ…うんっ…ああ……」

しかし、彼女は身体を痙攣させながらしかも失禁をしている。とても困った俺はらっきょうと言う言葉がダメなのかなと思って最後にこういった。

「じゃあやっぱり福神漬で」

「三百七十円になりまーす」

と生意気な声で言ってきた。なんだか俺は腹が立ってきた。

「ごめんやっぱらっきょうにしてください」

「ああ…！　くうん…あ！　…あああ！」

なんだよこの野郎。

心底思ったのだった。

結果的にはらっきょうは買えなかった。次の日もその1週間後も、その新人アルバイトが店番をしているものだから、らっきょうが買えなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1151e/>

---

らっきょうの話

2010年11月21日15時45分発行